平成27年12月環境経済観測調査(環境短観)

概況

環境省は、環境ビジネスに焦点を当て、平成22年12月から半年ごとに実施している「環境経済観測調査」(環境短観。調査対象:民間企業11,772社。有効回答数4,886社)について、平成27年12月調査の結果を取りまとめました。主な結果は以下のとおりです。

<u>(1)環境ビジネスの業況DI*</u>

環境ビジネスを実施している企業から見た自社の環境ビジネスの現在(平成27年12月)の業況DIは「21」と、平成27年6月調査(以下、前回調査)の業況DI「22」とほぼ同様となった。これは、全ビジネスの業況DI「15」や日銀短観の業況DI「9」(平成27年12月)と比べて高く、環境ビジネスの業況は概ね好調さを維持している結果となった。

また、<u>半年先、10年先ともに、業況は好調さを維持</u>する見通しであり(半年先のDI「22」、10年先のDI「21」)、環境ビジネスの4大分野(環境汚染防止分野、地球温暖化対策分野、廃棄物処理・資源有効利用分野、自然環境保全分野)の中では、特に<u>地球温暖化対策分野の業況DIが、全体を牽引</u>した。

※ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index):「良い」と回答した割合-「悪い」と回答した割合、%ポイント

(2) 現在発展している、または今後発展が見込まれる環境ビジネス

我が国の環境ビジネスのうち、現在発展していると考えるビジネスについて回答を求めたところ、「省エネルギー 自動車」と回答する割合が最も高くなった。今後(半年先、10年先)発展が見込まれると考えるビジネスについて は、半年先は「省エネルギー自動車」、10年先は「再生可能エネルギー」(太陽光発電を除く。以下同じ。)と回答す る割合が最も高くなった。

(3) 今後実施したいと考えている環境ビジネス

今後実施したいと考えている環境ビジネスについて回答を求めたところ、「再生可能エネルギー」と回答する割合 <u>が最も高く</u>なった(第1位)。続いて、「その他の地球温暖化対策ビジネス」(第2位)、「スマートグリッド」(第3位)、 「省エネルギーコンサルティング等」(第3位)、「省エネルギー建築」(第5位)、「その他の環境汚染防止製品・装置・施設」(第5位)の順となった。「再生可能エネルギー」の回答割合は、平成23年6月調査以降、業種・企業規模 を問わず最も高くなっている。

また、今後実施したいと考えている環境ビジネスの実施予定地として最も多かったのが関東で123件、続いて中部が66件、近畿が58件、東北が40件となった(その他・不明分を除く)。

平成28年2月29日



【問い合わせ】環境省 総合環境政策局 環境計画課 環境経済政策調査室 代表:03-3581-3351 (内線 6207)

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の概要	2
参考 調査票	18

1. 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、産業全体における環境ビジネスに対する認識や取組状況について構造的な調査を継続的に 実施して、調査結果を環境ビジネス振興策の企画・立案等の基礎資料として活用するとともに、調査結果を 公表して環境ビジネスの市場の認知度向上を図ることにより、環境ビジネスの発展に資することを目的として いる。なお、本調査は、統計法(平成19年法律第53号)に基づく一般統計調査である。

(2)調査期間

平成 27 年 11 月 16 日(月)~平成 27 年 12 月 25 日(金) (基準時点は回答時点とする。)

(3)調査対象

全国の資本金 2,000 万円以上の民間企業のうち、資本金、業種別の層化無作為抽出法により選定された 11,772 社。有効回答数 4,886 社、有効回答率 41.5%。

(4)抽出方法

業種(22区分)と企業規模(資本金3区分;中小企業(2,000万円以上1億円未満)、中堅企業(1億円以上10億円未満)、大企業(10億円以上))により層化し、各層について必要な標本サイズを定める。大企業を中心に一部層につき全数調査となり、標本層については、等確率系統抽出により抽出を行った。

(5)調査項目(調査票は別掲)

- 問1 (1)我が国の環境ビジネス全体の業況(現在、半年先、10年先)、(2)我が国で発展していると考える環境ビジネス分野(現在、半年先、10年先)
- 問2 貴社のビジネス全体の業況等(現在、半年先、10年先) (1)業況、(1)-2業況判断の要因、(2)業界の国内需給、(3)提供価格、(4)研究開発費、(5)設備規模、(6)人員体制、(7)資金繰り(現在のみ回答)、(8)業界の海外需給(海外向け事業を実施している場合)、(9)海外販路拡大の意向(海外向け事業を実施していない場合)
- 問3 環境ビジネスの実施の有無
- 問3-1 実施している環境ビジネス(最大3つ)とその業況等(現在、半年先、10年先) 質問事項は問2の(1)~(9)と同様
- 問4 (1)実施したい環境ビジネスの有無、(2)~(4)実施したい環境ビジネスの時期と(最大3つ、実施したい理由、実施したい時期と場所)、(5)実施したい環境ビジネスが「ない」、「分からない」理由

(6)環境ビジネス分類

環境ビジネス分類については、以下の4大分野、34小項目からなる分類(平成23年6月改定)を用いた。 A環境汚染防止分野(12小項目)、 B地球温暖化対策分野(11小項目)

C 廃棄物処理·資源有効利用分野(8小項目)、D 自然環境保全分野(3小項目)

(7)調査の方法

郵送・FAX回答方式、オンライン回答方式、電子メールによる回答方式を併用した。

(8)集計方法等

主業、企業規模、環境ビジネス等の別に単純集計を行った(母集団推計は行っていない)。 業況等の判断項目においては、以下によりDI(ディフュージョン・インデックス)を算出した。

DI(%ポイント) = 第1選択肢の回答社数構成比(%) - 第3選択肢の回答社数構成比(%)

2. 調査結果の概要

(1) 我が国の環境ビジネス

①我が国の環境ビジネス全体の業況

全企業(環境ビジネスを実施していない企業も含む)から見た我が国の環境ビジネス全体の業況について、現在、半年先、10年先の各時点において、「良い」、「さほど良くない」、「悪い」の選択肢から回答を求めた。なお、「現在」は半年前との、「半年先」及び「10年先」は現在との比較で回答を求めた。

なお、本頁の「我が国の環境ビジネス全体の業況」は、"全企業(環境ビジネスを実施していない企業も含む)から見た業況"であり、8頁の「環境ビジネスの業況」である"環境ビジネスを実施している企業から見た業況"とは異なる点に留意すべきである。

- 表1において、DIは全てプラスとなり、我が 国の環境ビジネスの業況は、「良い」と回答 した企業数が「悪い」と回答した企業数を上 回った。特に企業規模が大きいほどその傾 向が強まった。また、現在のDIは前回調査 (26)とほぼ同様の結果となった。
- 企業規模、製造業・非製造業の別に関わらず、10年先には環境ビジネスの業況が「良い」と考える企業の割合が現在より高まる傾向となった。

表1 我が国の環境ビジネスの業況

(DI:「良い」-「悪い」、%ポイント)

		現在	半年後	10年先
全位	*	25	25	41
	(前回調査)	(26)	(25)	(41)
	大企業	29	29	51
	中堅企業	27	27	42
	中小企業	20	18	31
	製造業	27	26	46
	非製造業	24	24	39

②我が国で発展していると考える環境ビジネス

我が国の環境ビジネスのうち、現在発展していると考えるビジネス、今後(半年先、10年先)発展していると 考えるビジネスについて、環境ビジネス分類から回答を求めた。

表2	我が国で発展	ていると考える環境ビジネス	上位5ビジネス
77 Z	47 / / T T H H H H H H H H	くしいるん 有える ほぼし ノかみ	エツンレンかへ

	現在	%		半年先	%		10年先	%
1	省エネルギー自動車	26.7	1	省エネルギー自動車	28.6	1	再生可能エネルギー	24.0
		【温暖対策】			【温暖対策】			【温暖対策】
2	大気汚染防止用装置・施設	17.1	2	再生可能エネルギー	12.5	2	省エネルギー自動車	17.7
		【汚染防止】			【温暖対策】			【温暖対策】
3	下水、排水処理用装置·施設	10.0	3	大気汚染防止用装置·施設	11.8	3	大気汚染防止用装置・施設	7.8
		【汚染防止】			【汚染防止】			【汚染防止】
4	太陽光発電システム(関連機	10.0	4	太陽光発電システム(関連機	7.3	4	その他の地球温暖化対策ビ	6.4
	器製造)	【温暖対策】		器製造)	【温暖対策】		ジネス	【温暖対策】
5	再生可能エネルギー	9.1	5	下水、排水処理用装置·施設	5.4	5	蓄電池	5.7
		【温暖対策】			【汚染防止】			【温暖対策】

- ※ 再生可能エネルギー: 風力発電/水力発電/地熱発電/太陽熱利用/バイオガス発電/中小水力発電等の装置製造及び新エネ売電ビジネス等(以下同様の定義とする。)
- 我が国で発展していると考える環境ビジネスとして、現在及び半年先の時点では「省エネルギー自動車」と 回答する割合が最も高く、10年先においては「再生可能エネルギー」と回答する割合が最も高くなった。この 傾向は、前回調査と同様であった。
- 地球温暖化対策分野や環境汚染防止分野の環境ビジネスが全時点で上位5ビジネスを占める結果となった。 特に、地球温暖化対策分野の「省エネルギー自動車」及び「再生可能エネルギー」、環境汚染防止分野の 「大気汚染防止装置・施設」は、全時点で上位5ビジネスに挙げられている。

(2)回答企業の実施している環境ビジネス

①現在実施している環境ビジネス

現在実施している環境ビジネスについて、環境ビジネス分類から回答を求めた。複数実施している場合には、売上高に占める割合の順に最大3つまでの複数回答を得た。

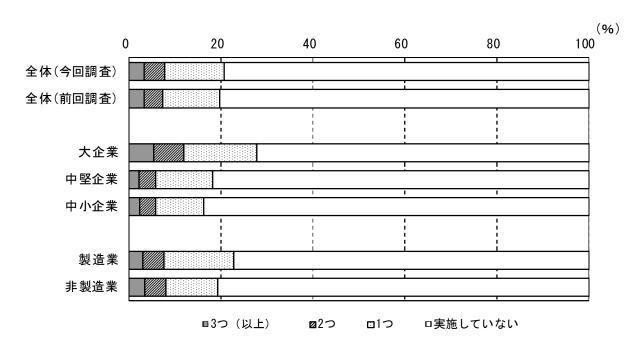
(a) 環境ビジネス実施状況

表3 環境ビジネスの実施状況

(%)

		回答企業数	実施				実施
		(社)	している	3つ(以上)	2つ	1つ	していない
全体		4,883	20.9	3.5	4.5	12.9	79.1
	(前回調査)	(4,923)	(19.9)	(3.5)	(3.9)	(12.5)	(80.1)
	大企業	1,628	27.9	5.7	6.4	15.9	72.1
	中堅企業	1,512	18.3	2.2	3.7	12.4	81.7
	中小企業	1,743	16.5	2.5	3.5	10.5	83.5
	製造業	1,908	23.0	3.2	4.6	15.1	77.0
	非製造業	2,975	19.5	3.6	4.5	11.4	80.5

図1 環境ビジネスの実施状況



- 回答企業のうち、環境ビジネスを実施している企業の割合は20.9%と前回調査(19.9%)からやや増加した。
- 企業規模が大きいほど、環境ビジネスを実施している割合が高くなり、製造業と非製造業では、製造業の方が環境ビジネスを実施している割合が高かった。

(b) 現在実施している環境ビジネス

表4 現在実施している環境ビジネス 上位5ビジネス(業種別・企業規模別)

(業種別)

	全産業	%		製造業	%		非製造業	%
1	再生可能エネルギー	21.4 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	14.2 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	26.9 【温暖対策】
2	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	10.8 【温暖対策】	2	リサイクル素材	12.6 【廃棄処理】	2	太陽光発電システム(据付・ メンテナンス等)	16.0 【温暖対策】
3	高効率給湯器	10.2 【温暖対策】	3	その他の環境汚染防止製 品・装置・施設	12.1 【汚染防止】	2	高効率給湯器	16.0 【温暖対策】
4	産業廃棄物処理	10.0 【廃棄処理】	4	省エネルギー自動車	11.9 【温暖対策】	4	産業廃棄物処理	10.5 【廃棄処理】
5	その他の環境汚染防止製 品・装置・施設	7.4 【汚染防止】	5	太陽光発電システム(関連機 器製造)	11.2 【温暖対策】	5	その他の地球温暖化対策ビ ジネス	7.2 【温暖対策】

※本表の「%」(回答数/回答企業数×100)は、複数回答のため合計すると100%を超過する。

(企業規模別)

	大企業	%		中堅企業	%		中小企業	%
1	再生可能エネルギー	22.6 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	23.1 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	17.8 【温暖対策】
2	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	11.0 【温暖対策】	2	高効率給湯器	13.7 【温暖対策】	2	高効率給湯器	15.3 【温暖対策】
3	リサイクル素材	10.1 【廃棄処理】	3	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	10.1 【温暖対策】	3	太陽光発電システム(据付・メンテナンス等)	11.1 【温暖対策】
4	産業廃棄物処理	9.9 【廃棄処理】	4	産業廃棄物処理	9.4 【廃棄処理】	4	産業廃棄物処理	10.8 【廃棄処理】
5	太陽光発電システム(関連機 器製造)	9.5 【温暖対策】	5	その他の地球温暖化対策ビジネス	8.7 【温暖対策】	5	下水、排水処理サービス	9.4 【汚染防止】

※本表の「%」(回答数/回答企業数×100)は、複数回答のため合計すると100%を超過する。

- 現在実施している環境ビジネスとして、業種・企業規模を問わず、「再生可能エネルギー」と回答する割合が 最も高くなった。上位には地球温暖化対策分野に関するビジネスが多く挙げられた。
- なお、本調査は回答を単純集計しており、回答した企業数に占める割合となるので、必ずしも調査票を発送した母集団に占める企業の割合とは同様とはならず、誤差が生ずる。本項目のように、構成比ではなく回答数を比較する場合、この影響が顕著になる可能性には留意が必要である。

②今後実施したいと考えている環境ビジネス

現在実施していないが、今後実施したいと考えている環境ビジネスについて、環境ビジネス分類から最大 3つまでの回答を求めた。

(a) 環境ビジネスの実施意向

表5 環境ビジネスの実施意向

(%)

								(/ 0 /	
		回答企業数					実施したい		
		(社)	実施したい	3つ(以上)	つ(以上) 2つ		環境ビジネス がない	わからない	
全	体	3,804	10.4	1.8	2.4	6.3	50.4	39.2	
	(前回調査)	(3,999)	(10.4)	(1.9)	(2.2)	(6.3)	(50.9)	(38.7)	
	うち 環境ビジネス実施企業	740	29.3	5.3	6.5	17.6	27.4	43.2	
	うち 環境ビジネス未実施企業	3,064	5.8	0.9	1.4	3.5	56.0	38.2	

- 回答企業のうち、「今後新たな環境ビジネスを実施したい」と回答した企業の割合は10.4%と、前回調査と同じ結果となった。
- 現在、環境ビジネスを実施していない企業が、今後実施したいと回答した割合は5.8%と、前回調査(5.6%) からやや高くなった。既に実施している企業については、29.3%となり前回調査(30.9%)からやや低くなった。

(b) 今後実施したいと考えている環境ビジネス

表6 今後実施したいと考えている環境ビジネス 上位5ビジネス(業種別・企業規模別)

(業種別)

	全産業	%		製造業	%		非製造業	%
1	再生可能エネルギー	24.2 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	23.7 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	24.7 【温暖対策】
2	その他の地球温暖化対策ビジネス	8.8	2	その他の環境汚染防止製品・装置・施設	11.0		省エネルギーコンサルティン グ等	12.6
3	スマートグリッド	8.3 【温暖対策】	2	省エネルギー自動車	11.0 【温暖対策】	3	省エネルギー建築	10.3 【温暖対策】
3	省エネルギーコンサルティン グ等	8.3 【温暖対策】	4	大気汚染防止用装置・施設	8.7 【汚染防止】		その他の地球温暖化対策ビジネス	9.4 【温暖対策】
5	その他の環境汚染防止製 品・装置・施設	7.1 【汚染防止】	4	スマートグリッド	8.7 【温暖対策】	5	スマートグリッド	8.1 【温暖対策】
5	省エネルギー建築	7.1 【温暖対策】						

[※]本表の「%」(回答数/回答企業数×100)は、複数回答のため合計すると100%を超過する。

(企業規模別)

	大企業	%	中堅企業		%		中小企業	%
1	再生可能エネルギー	26.3 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	24.2 【温暖対策】	1	再生可能エネルギー	21.5 【温暖対策】
2	スマートグリッド	12.9 【温暖対策】	2	その他の自然環境保全	11.6 【環境保全】	2	省エネルギー建築	10.0 【温暖対策】
	省エネルギーコンサルティン グ等	11.1 【温暖対策】	3	その他の地球温暖化対策ビジネス	10.5 【温暖対策】	3	省エネルギー自動車	9.2 【温暖対策】
	その他の地球温暖化対策ビ ジネス	9.9 【温暖対策】	4	蓄電池	8.4 【温暖対策】	4	省エネルギー電化製品	7.7 【温暖対策】
	その他の環境汚染防止製 品・装置・施設	8.2 【汚染防止】	5	スマートグリッド	7.4 【温暖対策】	4	持続可能な農林漁業、緑化	7.7 【環境保全】

[※]本表の「%」(回答数/回答企業数×100)は、複数回答のため合計すると100%を超過する。

- 今後実施したいと考えている環境ビジネスとして、「再生可能エネルギー」と回答する割合が最も高くなった (第1位)。続いて、「その他の地球温暖化対策ビジネス」(第2位)、「スマートグリッド」(第3位)、「省エネルギーコンサルティング等」(第3位)、「省エネルギー建築」(第5位)、「その他の環境汚染防止製品・装置・施設」 (第5位)の順となった。地球温暖化対策分野の環境ビジネスが、上位5ビジネスの多くを占める結果となった。 なお、「再生可能エネルギー」の回答割合は、平成23年6月調査以降、業種・企業規模を問わず最も高くなっている。
- 環境ビジネスを今後実施したいと考える理由について、外的要因として「国内市場の発展が見込まれるため」、内的要因として「自社の技術・人材が活かせるため」との回答が多くみられた。

(c) 今後実施したいと考えている環境ビジネスの実施場所

今後実施したいと考えている環境ビジネスの実施予定地域について、地域ブロック別に回答を求めた。

表 7 実施したいと考えている環境ビジネス(実施予定地域別)

(回答数、カッコ内は全環境ビジネスにしめる割合)

	1								現ピンイ	ヘーしゅ		
	_		実施予定地域									
	Œ	全国		東北	関東	中部	近畿	中四国	九州	海外	その他・不明	
回答企業合計(複数回答有)	396	_	9	31	103	51	46	20	22	21	34	
全環境ビジネス	432	(100%)	14	40	123	66	58	25	29	25	52	
再生可能エネルギー	67	(16%)	2	7	16	9	11	5	8	3	6	
その他の地球温暖化対策ビジネス	26	(6%)	3	2	5	4	5	1	1	1	4	
省エネルギー自動車	20	(5%)	_	2	7	6	2	_	2	1	_	
省エネルギーコンサルティング等	20	(5%)	1	1	9	1	1	1	2	1	3	
省エネルギー建築	19	(4%)	_	_	4	2	4	4	_	_	5	
スマートグリッド	18	(4%)	_	1	6	3	3	1	1	-	3	
省エネルギー電化製品	18	(4%)	2	2	6	2	3	1	2	-	_	
蓄電池	18	(4%)	_	_	4	6	4	-	1	-	3	
その他の環境汚染防止製品・装置・施設	17	(4%)	_	1	5	4	2	1	1	2	1	
大気汚染防止用装置·施設	16	(4%)	_	2	1	6	1	_	_	4	2	
下水、排水処理用装置・施設	15	(3%)	_	1	3	_	1	2	1	_	7	
その他	178	(41%)	6	21	57	23	21	9	10	13	18	

● 今後環境ビジネスの実施を希望している企業は396社で、実施を希望する環境ビジネスは全体で432件となった。全環境ビジネスで見ると、実施予定地域は「関東」が123件と最も多く(約28%)、続いて「中部」が66件(約15%)、「近畿」が58件(約13%)、「東北」が40件(約9%)となった(その他・不明」を除く)。

③環境ビジネスの業況等

以下「(a)業況」から「(i)海外販路拡大の意向」までの項目は、環境ビジネスを実施中の企業に対して、環境ビジネスの各項目の状況について回答を求め、環境ビジネスを実施していない企業を含む企業全体のビジネスの状況と比較をした。なお、「現在」は半年前との、「半年先」及び「10年先」は現在との比較で回答を求めた。

また、業況等、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査(日銀短観)」にて同種の調査項目がある場合には、日銀短観全規模・全産業(金融機関を除く)の該当DIを参考として併記した。

なお、表中の「環境ビジネス」は環境ビジネスを実施中の企業の環境ビジネスの状況とし、「全ビジネス」 は環境ビジネスを実施していない企業を含む企業全体のビジネスの状況とした。

(a) 業況

日銀短観 全規模合計・全産業

表 8 業況DI

(DI:「良い」-「悪い」、%ポイント) → 予 測 H26年 H27年 (今回) H28年 6月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 10年先 環境ビジネス 22 21 (半年前における予測) (24)(23)(23)(22)A環境汚染防止 12 12 15 19 19 B地球温暖化対策 31 29 28 28 27 C廃棄物処理·資源有効利用 14 17 12 11 4 D自然環境保全 5 15 37 12 全ビジネス 15 15 8 11 14 (半年前における予測) (15)(7) (12)(15)うち 環境ビジネス実施企業 22 25 22 24 17 うち 環境ビジネス未実施企業 5 8 10 13 12

(注) 1. H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,581社、全ビジネス4,855社。 2.日銀短観のH28年3月は先行きの数値。以下(h)まで同様。

5

(DI:「良い」-「悪い」、%ポイント) 50 予測 40 ************* 環境ビジネス 30 - **=**- A環境汚染防止 20 ---▲--· B地球温暖化対策 10 0 ○○○○○ C廃棄物処理・資源有効利用 -10 - ◆ - D自然環境保全 -20 ━○━ 全ビジネス -30─○─ 日銀短観 全規模・全産業 -40 -50 H26年 H27年 H28年 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 10年先

図2 環境ビジネスの業況DI

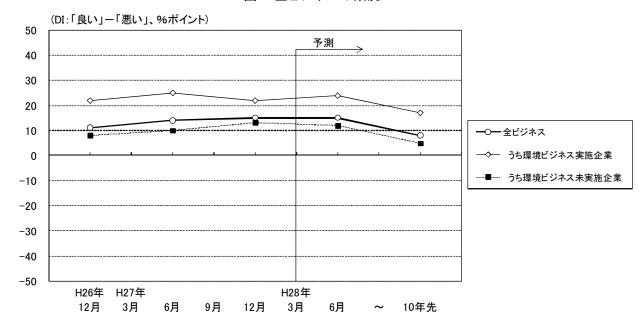
7

9

3

(注)日銀短観のH28年3月は先行きの数値。以下(h)まで同様。

図3 全ビジネスの業況DI



- 環境ビジネスの業況DIは「21」と、「良い」と回答した企業の割合が「悪い」と回答した企業の割合を上回った。 この業況DIは、これまでの調査と同様に、全ビジネス(環境ビジネス未実施企業を含む。以下同じ。)の業況 DI「15」と比べて高くなった。なお、日銀短観の平成27年12月における業況DI「9」と比べても高く、引き続き 環境ビジネスの好調さをうかがい知ることができる。
- 前回調査の業況DI「22」とほぼ同様ではあるが、前回調査時点(平成 27 年 6 月)における予測と比べて低くなった。(前回調査の予測値 23)。半年先、10 年先ともに、環境ビジネスの業況は好調さを維持する見通しであり(半年先のDI「22」、10 年先のDI「21」)、環境ビジネスの4大分野の中では、特に地球温暖化対策分野の業況DIが、全体を牽引した。
- 業況判断の要因として、「取引先(顧客)からの受注が見込まれるため」、「国内市場の発展を見込まれるため」と回答した企業が多く見られた。
- 環境ビジネスを実施している企業の業況DI「22」は、実施していない企業の業況DI「13」と比べて高くなった。

表9 環境ビジネス分類別の業況DI

(DI:「良い」―「悪い」 %ポイント)

			(DI: 及い	」一「老	<u> </u>	<u> 1フド)</u>
	現在		半年	先	10年	先
	有効 回答数	DI	有効 回答数	DI	有効 回答数	DI
合計	1,581	21	1,568	22	1,531	21
前回調査	1,495	22	1,484	23	1,459	22
A. 環境汚染防止	367	15	363	19	356	19
前回調査	333	12	330	14	323	16
B. 地球温暖化対策	835	28	830	28	805	27
前回調査	812	29	807	30	792	29
C. 廃棄物処理·資源有効利用	325	12	321	11	316	4
前回調査	318	17	315	18	312	10
D. 自然環境保全	54	1	54	15	54	37
前回調査	32	12	32	12	32	28

(b) 国内需給

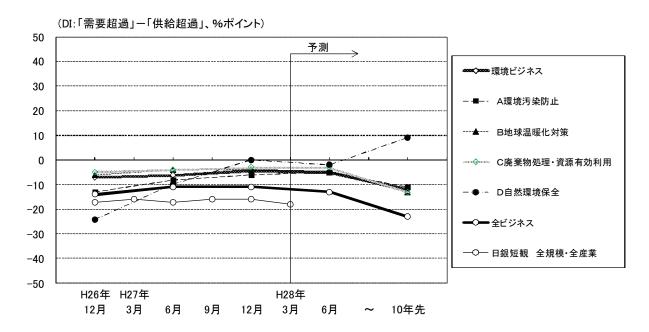
表10 国内需給DI

(DI:「需要超過」-「供給超過」、%ポイント)

							→ 予 测	則		
		H26年 12月	H27年 3月	6月	9月	(今回) 12月	H28年 3月	6月	~	10年先
環境	ビジネス	-7		-6		-4		-5		-12
	(半年前における予測)	(-2)		(-9)		(-6)				(-12)
	A環境汚染防止	-13		-8		-6		-5		-11
	B地球温暖化対策	-6		-4		-4		-5		-13
	C廃棄物処理·資源有効利用	-5		-4		-3		-3		-13
	D自然環境保全	-24		-10		0		-2		9
全ビ	ジネス	-14		-11		-11		-13		-23
	(半年前における予測)	(-12)		(-15)		(-12)				(-23)
	うち 環境ビジネス実施企業	-9		-8		-7		-8		-21
	うち 環境ビジネス未実施企業	-16		-13		-12		-15		-24
日銀	短観 全規模合計・全産業	-17	-16	-17	-16	-16	-18			

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,549社、全ビジネス4,671社。

図4 国内需給DI



- 環境ビジネスの国内需給DIは「-4」と、前回の調査と同様にマイナスとなり、「供給超過」と回答した企業の割合が「需要超過」と回答した企業の割合を上回った。これは全ビジネスの国内需給DI「-11」と比べて高く、環境ビジネスの国内需給の状況は全ビジネスよりも良好である結果となった。なお、日銀短観の平成27年12月における国内需給DI「-16」と比べても高い結果となった。
- 自然環境保全分野以外の分野では、10年先にかけて、国内供給DIが減少し、供給超過の傾向が強まる見通しとなった。自然環境保全分野の国内供給DIは、10年先にプラスになる見通しとなった。

(c)提供価格

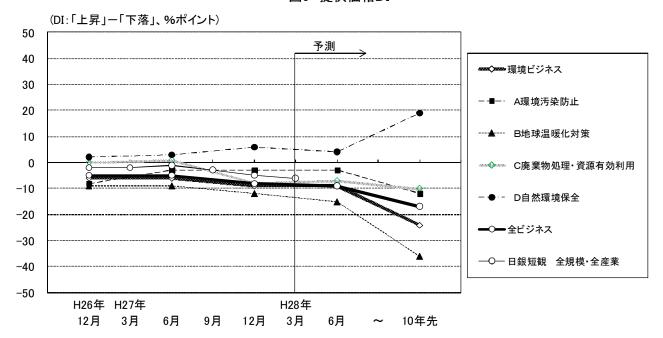
表11 提供価格DI

(DI:「上昇」-「下落」、%ポイント)

							→ 予 🥻	則		
		H26年 12月	H27年 3月	6月	9月	(今回) 12月	H28年 3月	6月	?	10年先
環境	ビジネス	-6	7,	-6	- 7,	-9		-9		-24
	(半年前における予測)	(-6)		(-9)		(-8)				(-24)
	A環境汚染防止	-8		-3		-3		-3		-12
	B地球温暖化対策	-9		-9		-12		-15		-36
	C廃棄物処理·資源有効利用	0		1		-8		-7		-10
	D自然環境保全	2		3		6		4		19
全ビ	ジネス	-5		-5		-8		-9		-17
	(半年前における予測)	(-5)		(-7)		(-5)				(-14)
	うち 環境ビジネス実施企業	0		-3		-11		-8		-17
	うち 環境ビジネス未実施企業	-7		-6		-7		-10		-16
日銀	短観 全規模合計・全産業	-2	-2	-1	-3	-5	-6			

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,547社、全ビジネス4,710社。

図5 提供価格DI



- 環境ビジネスの提供価格DIは「-9」と、「下落」と回答した企業の割合が「上昇」と回答した企業の割合を上回っており、前回調査のDI「-6」と比べて低くなった。これは全ビジネスの提供価格DI「-8」とほぼ同様で、日銀短観の平成27年12月における提供価格DI「-5」と比べて低い結果となった。
- 自然環境保全分野以外の分野では、10年先にかけて、提供価格DIが減少し、提供価格の下落傾向が強まる見通しとなった。特に、地球温暖化対策分野については、業況DIの増加が見込まれる中、提供価格の下落傾向がより強まっており、これは商品・サービスの普及や技術革新等により提供価格の下落が進んでいくことが見込まれていると考えられる。
- なお、環境ビジネスの4大分野の中では、自然環境保全分野の提供価格のみが、10年先にかけて上昇する 見通しとなった。

(d) 研究開発費

表12 研究開発費DI

(DI:「増加」ー「減少」、%ポイント)

						→ 予 🥻	則		
	H26年	H27年			(今回)	H28年			
	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	~	10年先
環境ビジネス	1		1		1		3		4
(半年前における予測)	(5)		(1)		(1)				(3)
A環境汚染防止	-1		1		2		4		9
B地球温暖化対策	2		2		2		4		2
C廃棄物処理·資源有効利用	0		-4		-4		-3		-2
D自然環境保全	-2		3		7		15		34
全ビジネス	0		1		2		3		7
(半年前における予測)	(3)		(2)		(3)				(5)
うち 環境ビジネス実施企業	8		6		8		11		18
うち 環境ビジネス未実施企業	-2		0		1		1		5

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,523社、全ビジネス4,560社。

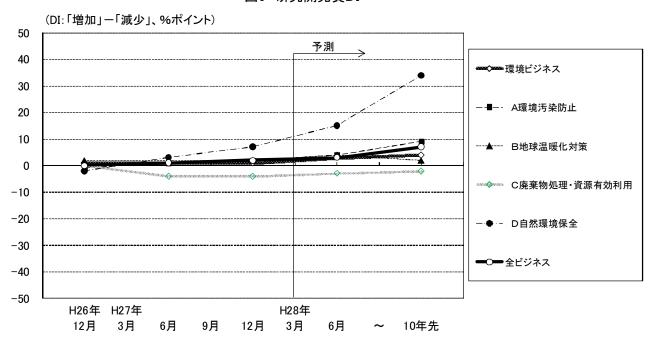


図6 研究開発費DI

- 環境ビジネスの研究開発費DIは「1」と、「増加」と回答した企業の割合が「減少」と回答した企業の割合をやや上回った。これは全ビジネスの研究開発費DI「2」とほぼ同様であった。半年先から10年先にかけて、環境ビジネスの研究開発費DIはやや増加する傾向となった。
- 環境ビジネスを実施している企業の現在の研究開発費DIは「8」と、実施していない企業の研究開発DI「1」と比べて高くなった。10 年先には、実施している企業の研究開発費DIが「18」、実施していない企業の研究開発費DIが「5」となり、どちらも研究開発費DIは増加する傾向となった。
- 環境ビジネスの4大分野の中では、自然環境保全分野の研究開発DIが、10年先にかけて増加する見通しとなった。

(e)設備規模

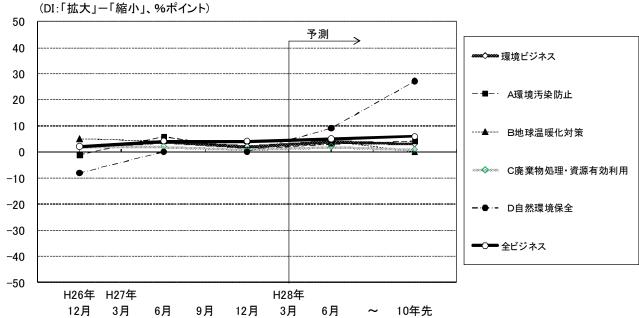
表13 設備規模DI

(DI:「拡大」ー「縮小」、%ポイント)

							→ 予 🥻	則		
		H26年	H27年			(今回)	H28年			
		12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	~	10年先
環境ビジネス		2		4		2		4		3
(半年前に	おける予測)	(6)		(2)		(2)				(3)
A環境污染	杂防止	-1		6		1		3		4
B地球温明	爰化対策	5		4		4		4		0
C廃棄物処	Ū理∙資源有効利用	2		2		1		2		1
D自然環境	竟保全	-8		0		0		9		27
全ビジネス		2		4		4		5		6
(半年前に	おける予測)	(5)		(4)		(5)				(3)
うち 環境し	ごジネス実施企業	10		13		11		13		11
うち 環境し	ごジネス未実施企業	1		0		2		3		4

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,543社、全ビジネス4,678社。

図7 設備規模DI %ポイント)



- 環境ビジネスの設備規模DIは「2」と、「拡大」と回答した企業の割合が「縮小」と回答した企業の割合を上回った。これは全ビジネスの設備規模DI「4」と比べてやや低くなった。10年先にかけて、環境ビジネスの設備規模DIはほぼ横ばいの見通しとなった。
- 環境ビジネスを実施している企業の現在の設備規模DIは「11」と、実施していない企業の設備規模DI「2」と 比べて高くなった。10 年先には、環境ビジネスを実施している企業の設備規模DIが「11」、実施していない 企業の設備規模DIが「4」となり、環境ビジネスを実施している企業の設備規模は引き続き好調に推移する 見通しとなった。
- 環境ビジネスの4大分野の中では、自然環境保全分野の設備規模DIが、10年先にかけて大きく増加する見通しとなった。

(f)人員体制

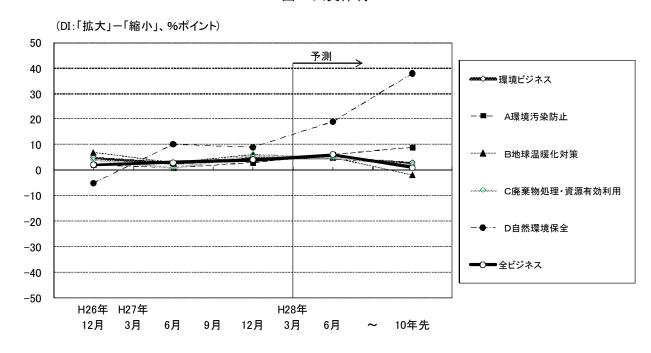
表14 人員体制DI

(DI:「拡大」ー「縮小」、%ポイント)

						→ 予 🥻	則		
	H26年	H27年			(今回)	H28年			
	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	~	10年先
環境ビジネス	5		3		5		5		3
(半年前における予測)	(8)		(4)		(3)				(0)
A環境汚染防止	2		1		3		6		9
B地球温暖化対策	7		3		6		5		-2
C廃棄物処理·資源有効利用	4		1		6		5		2
D自然環境保全	-5		10		9		19		38
全ビジネス	2		3		4		6		1
(半年前における予測)	(5)		(4)		(4)				(-1)
うち 環境ビジネス実施企業	11		11		10		11		9
うち 環境ビジネス未実施企業	0		1		3		4		0

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,553社、全ビジネス4,722社。

図8 人員体制DI



- 環境ビジネスの人員体制DIは「5」と、「拡大」と回答した企業の割合が「縮小」と回答した企業の割合を上回った。これは全ビジネスの人員体制DI「4」とほぼ同様となった。10年先にかけて、環境ビジネスの人員体制DIはやや減少する見通しとなった。
- 環境ビジネスの4大分野の中では、自然環境保全分野の人員体制DIが、10年先にかけて大きく増加する見込みとなった。

(g) 資金繰り (「現在」のみ回答)

表15 資金繰りDI

(DI:「楽である」-「苦しい」、%ポイント)

		\	· / C 0/	<u> </u>	00 10 70	
		H26年 12月	H27年 3月	6月	9月	(今回) 12月
環境	ビジネス	6	07]	7	07]	9
	A環境汚染防止	6		9		9
	B地球温暖化対策	8		7		10
	C廃棄物処理•資源有効利用	5		6		9
	D自然環境保全	4		16		4
全ビ	ジネス	2		3		4
	うち 環境ビジネス実施企業	10		10		13
	うち 環境ビジネス未実施企業	0		1		1
日銀	短観 全規模合計・全産業	9	12	12	12	13

(注)H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,532社、全ビジネス4,718社。

● 環境ビジネスの資金繰りDIは「9」と、「楽である」と回答した企業の割合が「苦しい」と回答した企業の割合を 上回った。これは全ビジネスの資金繰りDI「4」と比べて高いが、日銀短観の平成27年12月における資金繰り DI「12」と比べて低い結果となった。なお、本調査における全ビジネスの資金繰りDIは、日銀短観の資金繰り DIと比べて低くなる傾向がある。

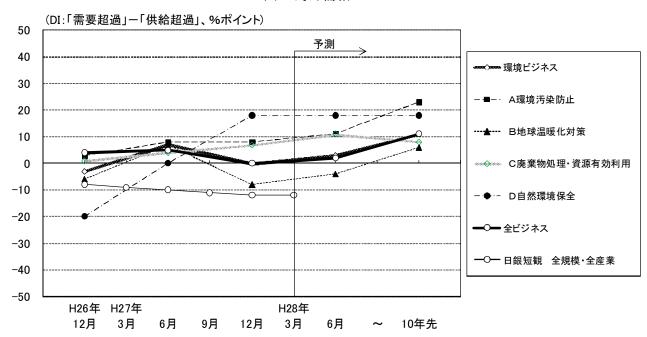
(h) 海外需給 (海外市場向けの事業を実施している企業のみ回答) 表16 海外需給DI

(DI:「需要超過」-「供給超過」、%ポイント)

							→予湯	則		
		H26年 12月	H27年 3月	6月	9月	(今回) 12月	H28年 3月	6月	?	10年先
環境	ビジネス	-3	• •	7		0	, ,	3		11
	(半年前における予測)	(4)		(0)		(7)				(15)
	A環境汚染防止	3		8		8		11		23
	B地球温暖化対策	-6		7		-8		-4		6
	C廃棄物処理·資源有効利用	1		4		7		11		8
	D自然環境保全	-20		***		18		18		18
全ビ	ジネス	4		5		0		2		11
	(半年前における予測)	(6)		(7)		(6)				(11)
	うち 環境ビジネス実施企業	3		4		1		3		15
	うち 環境ビジネス未実施企業	4		4		0		2		10
日銀	短観 全規模合計・全産業	-8	-9	-10	-11	-12	-12			

- (注1)H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス386社、全ビジネス1,417社。
- (注2)有効回答数が10未満の場合、DIを「***」と表記した。

図9 海外需給DI



- 輸出や現地生産など、海外市場向けの事業を実施している企業における環境ビジネスの海外需給DIは「0」と、「需要超過」と回答した企業の割合と「供給超過」と回答した企業の割合が同じとなった。これは全ビジネスの海外需給DI「0」と同様の結果となった。また、日銀短観の平成27年12月における海外需給DI「-12」と比べて高い結果となった。なお、本調査における全ビジネスの海外需給DIは、日銀短観の海外需給DIと比べて高くなる傾向がある。
- 10年先にかけて、廃棄物処理・資源有効利用分野以外の分野では、10年先にかけて、環境ビジネスの海外 需給DIは増加する見通しとなった。

(i)海外販路拡大の意向 (海外市場向けの事業を実施していない企業のみ回答)

表17 海外販路の拡大意向DI

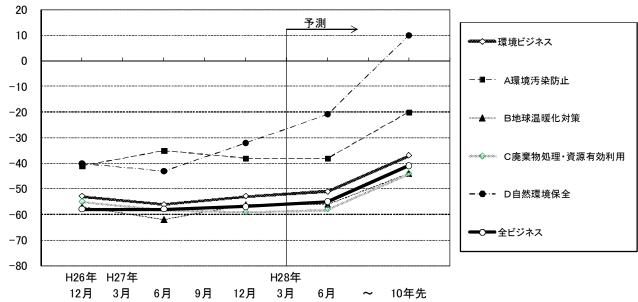
(DI:「販路拡大意向あり」ー「販路拡大意向なし」、%ポイント)

							→ 予 🥻	則		
		H26年	H27年			(今回)	H28年			
		12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	~	10年先
環境	ビジネス	-53		-56		-53		-51		-37
_	(半年前における予測)	(-47)		(-51)		(-55)				(-40)
	A環境汚染防止	-41		-35		-38		-38		-20
	B地球温暖化対策	-57		-62		-56		-56		-44
	C廃棄物処理·資源有効利用	-55		-58		-59		-58		-44
	D自然環境保全	-40		-43		-32		-21		10
全ビ	ジネス	-58		-58		-57		-55		-41
	(半年前における予測)	(-53)		(-55)		(-55)				(-42)
	うち 環境ビジネス実施企業	-52		-58	-	-58		-57		-36
	うち 環境ビジネス未実施企業	-59		-58		-56		-55		-43

(注) H27年12月時点の有効回答数は、環境ビジネス1,068社、全ビジネス3,142社。

図10 海外販路の拡大意向DI

(DI:「販路拡大意向あり」ー「販路拡大意向なし」、%ポイント)



- 海外市場向けの事業を実施していない企業における、現在の環境ビジネスの海外販路拡大意向DIは「-53」と、「販路拡大意向あり」と回答した企業の割合が「販路拡大意向なし」と回答した企業の割合を下回った。10年先にかけて、海外販路拡大意向DIは総じて増加する見通しとなった。
- なお、海外販路拡大意向DIは、現在海外向け事業を実施していない企業を対象とした調査項目であるため、 事業の性格や企業規模等により、そもそも海外展開の余地が限られる企業が比較的多く含まれることから、 海外販路拡大意向DIは大幅なマイナスとなる傾向がある。



2 2 2

3 3 3

在

先

良い

悪い

さほど良くない

環境省「平成27年12月環境経済観測調査」



本調査は年2回、環境に関する分野の景況感を把握・公表している重要な調査になります。ご協力頂きますようお願い申し上げます。 環境ビジネスを実施されていない場合も可能な範囲でご記入下さい。

間3において「1. ある」を選択した方はご回答ください。

別冊の「2. 環境ビジネス分類」から、貴社で実施している環境ビジネスを最大3つ選び、それぞれについて売上高に占める環境ビジネスの売上の

また、各環境ビジネスについて問2と同様に(1)~(7)及び(8)または

間3-1. 実施している環境ビジネス

割合(%)と併せてご記入ください。

【提出期限 平成27年12月18日】

本調査は、統計法(平成19年法律第53号)に基づいて国が行う統計調査です。同法の規定により、回答内容については秘密を保護するとともに、統計調査以外の目的に使 用することはありません。本調査の回答結果については統計的に集計・処理し、個別のご回答や企業・団体名等が公開されることはございません。また、調査票の回収・回 答内容の確認等の業務についてエム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社に業務委託しますが、同社との間で必要な契約を締結し、個人情報を含めた情報の適切な

インターネット(オンライン回答または電子ファイルのメール送付)での回答も受け付けております。詳細は「環境経済情報ボータルサイト」をご覧下さい。 http://www.env.go.jp/policy/keizai portal (「環境短観」で検索)

					(9)1C 30 · C; IX 0 ≡	1 (100	OEE I	(IIXV)	出つい	.02.	11, 0	./_00	.0	
	全員ご回答ください。				■ 別冊の「2. 環境ビジネ	環境		ネス	環境	ピジオ	NA.	環境ビ	·ジネ:	z
	間2. 貴社のビジネス全体の業況等				ス分類」から選んだま		0			2			3	
調査票番号					境ビジネス番号。 (例 A-1)		_		i	_			_	
東京都〇〇区	貴社のビジネス全体において、(1)~(7)及び(8)また 択肢の番号に○をつけてください。	こは(9)について最も	5当て	ままる。	選 (四人 1)									
△△ △丁目×—×	MIXOU FILO E SIT C VICEV 8				売上高に占める環境と			%			%			%
~~株式会社 御中		貴社のビジネ	ス全	体	ジネスの売上の割合。			90			90		9	70
(送付先の住所・会社名を印刷)				半 10	0	T_	*	10		*	10	_ [# 1	
	(注)「現在」は半年前との、「半年先」と「10年先」は現		現し	车 年		現在	年先	年	現在	年	-	現し	年 5	Ŧ
資本金 1000百万円 主業業種コード 1	在との比較でご回答ください。		ш.	先月	 	"	先	先	"	先	先	" f	先 5	ŧ
	(1) 業況	良い	1	1 1	良い	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	10 M A A A A A A A A A A A A A A A A A A	さほど良くない	2	2 2	さほど良くない	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	収益を中心とした、業況についての全般的な判断。	悪い	3	3 3	悪い	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	(1)-2 業況判断の要因							Ī					Т	
前回回答もしくは総務省データベースより転載、	「(1)業況」において「 <u>良い</u> 」又は「 <u>悪い</u> 」を選択した方は、当てはまる	理由を別無の「3 理由			別冊の「3. 理由コード									
今回回答の参考としてください。	コード」から最大3つまで選び、ご記入ください。「その他」を選択した	場合は、本調査票右下			から最大3つまで選び ご記入ください。	٠								
※ 宛先に修正がございましたら、赤字で訂正ください。	の補足説明欄に具体的にご記入ください。													
回答日、貴社及びご担当者について下欄内にご配入ください。	(2) 業界の国内需給	需要超過	1	1 1	需要超過	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	実状に応じて、客入り、引き合い、荷動きなども考慮した回答を含	ほぼ均衡	2	2 2	ほぼ均衡	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ご回答日 資本金 資本金 一	む。国内需給のみの判断が困難な場合は、国内外全般における判 断で可。	供給超過	3	3 3	供給超過	3	3	3	3	3	3	3	3	3
売上高(もしくは営業収益) 拒握している宣近の決定額(温額)の単	(3) 提供価格(注)	上昇	1	1 1	上昇	1	1	1	1	1	1	1	1	1
把握している 宣近の快生期(温期)の単 体快算の宗上宣をご記入ください。 ホ・ 他	製商品・サービスの販売価格、またはサービスの提供価格につい	もちあい(横ばい)	2	2 2	***	2	2	2	2	2	2	2	2	2
主業業種 別冊の「1.主業業種一覧」から選択の上、下記の番号にOを付けてください。	ての判断(円ベース)。実状に応じて客単価、坪単価、受注単価な ども考慮した回答を含む。	下落	3	3 3	下落	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	(4) 投入する研究開発費 (注)	増加	1	1 1	增加	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 建設業 9 その他製造業 17 不動産業、物品賃貸業 2 食料、繊維、木材、紙パルブ 10 電気業 18 学術研究、	製商品・サービスの研究・開発に投入する費用(人件費、原材料	横ばい	2	2 2	横ばい	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3 石油、化学、ゴム 11 ガス業 専門・技術サービス業	費、固定資産の減価償却費及び間接費の配賦額等を含む)につい ての判断。	減少	3	3 3	減少	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4 窯業・土石 12 水道、熱供給業 19 宿泊業, 飲食サービス業	(5) 投入する設備規模(注)	拡大	1	1 1		1	1	1	Ť	1	1	_	_	1
5 金属、金属製品 13 情報通信業 20 生活関連サービス業、 6 一般機械 14 運輸業、郵便業 娯楽業	投入する生産設備、営業用設備等の規模(複数の事業分野で利用	横ばい	2	2 2	横ばい	2	2	2	2	2	2	2	2	2
7 電気機械 15 卸売業、小売業 21 サービス業	されている場合は、当該事業で利用されている時間ベース等での 判断で可)についての判断。	縮小	3	3 3	縮小	3	3	3	3	3	3	_	_	3
8 輸送用機械 16 金融、保険業 22 その他	(6) 投入する人員体制(注)	拡大	1	1 1	拡大	1	1	1		1	1	1	1	1
担当都署 担当者名	投入する人員の体制(複数の事業分野に従事している場合は、当	横ばい	2	2 2		2	2	2	2	2	2	2	2	2
	該事業に従事している時間ベース等で可)についての判断。	縮小	3	3 3		3	3	3	3	3	3			3
e-mail TEL	(7) 資金繰り「現在」のみ	楽である	1		楽である	1	Ė	Ė	1			1		
	手元流動性水準、金融機関の貸出態度、資金の回収・支払い条	さほど苦しくない	2		さほど苦しくない	2	1		2			2		
	件、社内での配分等を総合した資金繰りについての判断。	苦しい	3		苦しい	3	1		3			3		
全員ご回答ください。	■下記の(8)か(9)のどちらか一方にご回答ください。													
間1、我が国の環境ビジネス全体	〈海外向けの事業を実施している場合〉	需要超過	1	1 1	需要超過	1	1	1		1	1	1	1	1
(1) 我が国の理境ビジネス全体 (2) 我が国の発展していると考える	(8) 業界の海外需給	ほぼ均衡	2	2 2		2	2	2	2	2	2	2		2
の東況 環境ビジネス	製商品・サービスの海外における需給についての判断。	供給超過	3	3 3	***	3	3	3	3	3	3	*****	*****	3
最も当てはまる選択肢の番号にOをつけて それぞれの時期に対して1つずつ、別冊の「2. 環境	<海外向けの事業を <u>実施していない</u> 場合>	販路拡大意向あり	1	1 1		1	1	Ť	1	1	1	_	_	1
ください。 ビジネス分類」から選び、番号(例:A-1)をご記入く ださい、該当するものがない、わからない場合はブラ	(9)海外販路拡大の意向	わからない/未定	2	2 2	700 PH 200 7 TO 1 200 7	2	2	2	2	2	2		-	2
ンクとしてください。	製商品・サービスの海外販路拡大(海外での販売を目的とした輸出 や海外生産の拡大)の意向についての判断。	販路拡大意向なし	3	3 3	***************************************	3	3	3	3	3	3		*****	3
現 年 年		ルストロリルノへのいっぱし	٥	5 0	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※		ٿ	ٿ	Ü	٠	۰			_
在	全量ご回答ください。				問2 (1)-2 問3-	1 (1)	-2 E	¶4 (3	にお	.T [7.D4	也 (本澤	択した	+

全員ご回答ください。 間4. 今後実施したい環境ビジネス (1)実施したい環境ビジネスの有無 貴社が**現在実施していないが、今後行いたいと考えている理境ビジネス**はありますか。 当てはまる選択肢の番号にOをつけてください。 3. わからない 2. ない (2)~(4)にご回答ください。 | >(5)にご回答ください。 (2)実施したい環境ビジネス 現在行っているビジネスを除いて実施した い環境ビジネス (最大3つ)を、別冊の 「2. 環境ビジネス分類」から選び、番号を にご記入ください。 (3)実施したい環境ビジネスの 理由 問4. (2)において回答した環境ビジネス を実施したい理由について、当てはまる 別冊の「3. 理由コード」から最大3つまて 選び、ご記入ください。 (4)実施したい環境ビジネスの 時期と場所 問4. (2)において回答した環境ビジネス について、実施時期、実施場所(都道府 県)を美支えない筋囲でご記入ください。 (実施時期、実施場所いずれかのご記) でも構いません。) 実施場所については、別冊の「4. 実施場 場所(1-49を記入) 場所(1-49を記入) 場所(1-49を記入) (5)実施したい環境ビジネスが「ない」、「分からない」理由 1. 収益性が見込めない (1)で実施したい環境ビジネスが 「2. ない」または「3. わからない」 市場として発展性が見込めない を選択した方は、その理由として当 3. 既存事業との関連性が少ない てはまる選択肢全ての番号にOを 4. 経営資源(人材、設備・資金等)が不十分 つけてください。 5. 関連情報が不十分 6. その他 具体的に

ご記入にあたっての注意事]	

1. 選択項目は該当するもの1つ、環境ビジネスは最大3つ選び、回答欄に数字 や記号をご記入ください。

(ア)<u>回答日現在の状況</u>について (イ)グループ企業をお持ちの場合も<u>単体決算の事業範囲</u>を対象としてくださ

(ウ)<u>季節変動</u>がある場合は、この要因<u>を除いた実勢ベース</u>でご判断ください。 (エ)<u>業種分類等は別冊を参照</u>ください。

	٠.
全員ご回答くださ	ν,

年先

間3. 環境ビジネスの実施の有無		
現在実施している環境ビジネスはありますか。	1. ある -	→ 間3-1へ
当てはまる選択肢の番号に〇を付けてください。	2. ない	> 間4へ

問2. (1)-2、問3-1. (1)-2、問4(3)において、「その他」を選択した方、問4(4)実施場所が「海外」の場合は下記の補足説明欄に具体的にご記入ください

ご協力ありがとうございました。



環境経済観測調査 別 冊

本冊子は、調査票記入時の、主業業種分類、環境ビジネス分類、理由コード、都道府県コード および記入例のご確認にご使用ください。

1. 主業業種一覧

選択		日本標準産業分類の中分類
番号		
	建設業	(06)総合工事業、(07)職別工事業(設備工事業を除く)、(08)設備工事業
2	食料、繊維、木材、紙パルプ	(09)食料品製造業、(10)飲料・たばこ・飼料製造業、(11)繊維工業、(12)木材・木製品製造業(家具を除く)、(13)家具・装備品製造業、(14)パルプ・紙・紙加工品製造業
3	石油、化学、ゴム	(16) 化学工業、(17) 石油製品・石炭製品製造業、(18) プラスチック製品製造業(別掲を除く)、 (19) ゴム製品製造業
4	窯業·土石	(21) 窯業・土石製品製造業
5	金属、金属製品	(22)鉄鋼業、(23)非鉄金属製造業、(24)金属製品製造業
6	一般機械	(25)はん用機械器具製造業、(26)生産用機械器具製造業、(27)業務用機械器具製造業
7	電気機械	(28) 電子部品・デバイス・電子回路製造業、(29) 電気機械器具製造業、(30) 情報通信機械器具製造業
8	輸送用機械	(31)輸送用機械器具製造業
9	その他製造業	(15) 印刷・同関連業、(20) なめし革・同製品・毛皮製造業、(32) その他の製造業
10	電気業	(33) 電気業
11	ガス業	(34) ガス業
12	水道、熱供給業	(35) 熱供給業、(36) 水道業
13	情報通信業	(37) 通信業、(38) 放送業、(39) 情報サービス業、(40) インターネット附随サービス業、(41) 映像・音声・文字情報制作業
14	運輸業、郵便業	(42)鉄道業、(43)道路旅客運送業、(44)道路貨物運送業、(45)水運業、(46)航空運輸業、 (47)倉庫業、(48)運輸に附帯するサービス業、(49)郵便業(信書便事業を含む)
15	卸売業、小売業	(50)各種商品卸売業、(51)繊維・衣服等卸売業、(52)飲食料品卸売業、(53)建築材料,鉱物・金属材料等卸売業、(54)機械器具卸売業、(55)その他の卸売業、(56)各種商品小売業、(57)織物・衣服・身の回り品小売業、(58)飲食料品小売業、(59)機械器具小売業、(60)その他の小売業、(61)無店舗小売業
16	金融、保険業	(62)銀行業、(63)協同組織金融業、(64)貸金業,クレジットカード業等非預金信用機関、(65)金融商品取引業、商品先物取引業、(66)補助的金融業等、(67)保険業(保険媒介代理業,保険サービス業を含む)
17	不動産業、物品賃貸業	(68)不動産取引業、(69)不動産賃貸業・管理業、(70)物品賃貸業
18	学術研究、専門・技術サービス業	(71)学術・開発研究機関、(72)専門サービス業(他に分類されないもの)、(73)広告業、 (74)技術サービス業(他に分類されないもの)
19	宿泊業、飲食サービス業	(75)宿泊業、(76)飲食店、(77)持ち帰り・配達飲食サービス業
20	生活関連サービス業、娯楽業	(78) 洗濯・理容・美容・浴場業、(79) その他の生活関連サービス業、(80) 娯楽業
21	サービス業	(88) 廃棄物処理業、(89) 自動車整備業、(90) 機械等修理業(別掲を除く)、(91) 職業紹介・労働者派遣業、(92) その他の事業サービス業、(93) 政治・経済・文化団体、(94) 宗教、(95) その他のサービス業
22	その他	(01)農業、(02)林業、(03)漁業(水産養殖業を除く)、(04)水産養殖業(05)鉱業,採石業,砂利採取業、(81)学校教育、(82)その他の教育,学習支援業、(83)医療業、(84)保健衛生、(85)社会保険・社会福祉・介護事業、(86)郵便局、(87)協同組合(他に分類されないもの)、(99)その他

日本標準産業中分類の詳細は以下の総務省統計局 HP よりご確認ください。 http://www.stat.go.jp/index/seido/sangyo/25-3.htm

2. 環境ビジネス分類

A. 環境汚染防止 (12分類) 装置・資材の製造、建設・機器の据付 (6分類)

<u> </u>	7. 表担、连政"废储"的的(·	0.71 规/
選択番号	小分類名	具体例
A-1	大気汚染防止用装置・施設	自動車排気ガス浄化触媒/石油精製用触媒(重油脱硫用を含む水素化処理触媒) /集じん装置/重・軽油脱硫装置/排煙脱硫装置/排煙脱硝装置/大気汚染防止 装置関連機器/光触媒/DPF 等
A-2	下水、排水処理用装置·施設	水処理薬品/膜/水処理装置/下水道整備事業等
A-3	土壌、水質浄化用装置・施設 (地下水浄化を含む)	土壌浄化(プラント製造)/土壌浄化関連建設工事 等
A-4	騒音、振動防止用装置・施設	防音材(騒音対策装置)/防音工事/防振材(振動対策装置)/防振工事 等
A-5	環境分析、測定、監視用装置	分析装置/関連施設の建設 等
A-6	その他の環境汚染防止製品・ 装置・施設	以上に含まれない環境汚染防止用装置・資材の製造、施設の建設/環境負荷低減及び省資源型製品の製造(環境対応型塗料・接着剤/エコマーク製品/バイオマスプラスチック/サルファーフリーガソリン・軽油/環境対応型建材等)

サービスの提供 (6分類)

<u> </u>	プ促供 (Oプ 規)							
選択番号	小分類名	具体例						
A-7	下水、排水処理サービス	下水処理(事業) 等						
A-8	土壌、水質浄化サービス (地下水浄化を含む)	土壌浄化(事業)/河川・湖沼浄化 等						
A-9	環境分析、測定、監視、アセスメント	環境モニタリング/環境アセスメント 等						
$\Delta - 111$		クリーン製造プロセス/汚染管理手法の研究開発/エンジニアリング・デザイン/プロジェクト管理/環境管理システム開発 等						
A-11	ルティング等	環境教育/環境教育ソフトウェア/エコファンド/環境保険/環境監査/ISO14000 取得コンサル/環境コミュニケーションビジネス/環境計画/法律サービス/NGO 活動 等						
A-12	その他の環境汚染防止サービス	以上に含まれない環境汚染防止サービス						

B. 地球温暖化対策 (11分類)

	也外血吸口对来(口力块)									
選択番号	小分類名	具体例								
B-1	再生可能エネルギー	風力発電/水力発電/地熱発電/太陽熱利用/バイオガス発電/中小水力発電 等の装置製造及び新エネ売電ビジネス 等								
B-2	太陽光発電システム (関連機器製造)	太陽電池/家庭用ソーラーシステム関連製造業								
B-3	太陽光発電システム (据付・メンテナンス等)	太陽電池/家庭用ソーラーシステムの据付・メンテナンス等								
B-4	スマートグリッド	スマートグリッド関連装置の製造及び事業								
B-5	省エネルギー自動車	低燃費かつ低排出認定車/アイドリングストップ車/電気自動車/天然ガス自動車/メタノール自動車/ハイブリッド自動車/燃料電池自動車								
B-6	省エネルギー電化製品	統一省エネラベル5☆相当のテレビ、エアコン、冷蔵庫/LED等省エネルギー型照明 器具 等								
B-7	高効率給湯器	潜熱回収型給湯器(エコジョーズ)/CO2冷媒ヒートポンプ給湯器(エコキュート)/家庭 用燃料電池(エネファーム)/ガスエンジン給湯器(エコウィル)								
B-8	省エネルギーコンサルティング 等	ESCO事業/BEMS/HEMS/CDM/JIプロジェクト/排出権取引関連ビジネス 等								
B-9	蓄電池	リチウムイオン電池/ニッケル水素電池 等								
B-10	省エネルギー建築	次世代省エネルギー住宅/省エネルギービル/断熱材/断熱施工 等								
B-11	その他の地球温暖化対策ビジ ネス	燃料電池/高性能ボイラ―/ガスコージェネ/エコドライブ関連機器/モーダルシフト 等								

C. 廃棄物処理·資源有効利用(8分類)

選択番号	小分類名	具体例								
C-1	廃棄物処理用装置·施設	最終処分場遮水シート/生ごみ処理装置/廃プラの高炉還元・コークス炉原料化設備/RDF製造装置/RDF発電装置/中間処理装置(破砕・選別・焼却・溶融)/リサイクルプラザ/PCB処理装置/処分場建設/焼却炉解体等								
C-2	一般廃棄物処理	一般廃棄物の収集・運搬/中間処理/リサイクル(熱回収を含む。)/最終処分 等								
C-3	産業廃棄物処理	産業廃棄物の収集・運搬/中間処理/リサイクル(熱回収を含む。)/最終処分 等								
C-4	リフォーム、リペア	建設リフォーム/機械・家具等修理業/各種商品修理業等								
C-5	リース、レンタル	リース・レンタル(産業機械/輸送機器/通信機器/商業用機械設備/医療用機器/電子計算機・同関連機器/土木・建設機械)/カーシェアリング 等								
C-6	中古品	資源回収/中古品流通/リターナブルびんの生産・リュース								
C-7	リサイクル素材	再資源の商品化(廃プラスチック製品製造業、鉄スクラップ加工処理業、非鉄金属第二次精錬・精製業等)/PETボトル再生繊維化および利用/生ごみ肥料化/再生紙/エコセメント/動脈産業での廃棄物受入ビジネス(鉄鋼業、セメント製造業、紙製造業等)等								
C-8	その他の資源有効利用	100年住宅 等								

D. <u>自然環境保全(3分類)</u>

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
選択番号	小分類名	具体例
D-1	水資源利用	雨水利用設備/雨水浸透工事(含貯留)/中水道配管工事/下水処理水供給 等
D-2	持続可能な農林漁業、緑化	林業/国産材使用/環境保全型農業/緑化/養殖/稚魚放流 等
D-3	その他の自然環境保全	エコツーリズム(自然観賞型観光)/山崩れ等の山地災害対策/津波対策 等

3. 理由コード

	選択番号	問2(1)、問3-1(1)で「良い」を 選択した場合の理由 問4(3)で「実施したい環境ビジネス」の理由	選択番号	問2(1)、問3-1(1)で「悪い」を 選択した場合の理由
	1	産業界全体の景気が良いため	51	産業界全体の景気が悪いため
	2	補助金・助成金などの支援策がある又は見込まれるため	52	補助金・助成金などの支援策がない又は見込まれないため
	3	海外市場の発展が見込まれるため	53	海外市場の発展が見込まれないため
	4	国内市場の発展が見込まれるため	54	国内市場の発展が見込まれないため
外的要因	5	規制緩和があるため	55	規制が厳しいため
	6	取引先(顧客)からの受注が見込まれるため	56	取引先(顧客)からの受注が見込まれないため
	7	新規参入・事業拡大し易いため	57	新規参入・事業拡大し難いため
	8	FIT(固定価格買取制度)があるため	58	国内企業との競争激化が見込まれるため
			59	海外企業との競争激化が見込まれるため
	11	自社の技術・人材が活かせるため	61	自社の技術・人材が活かせないため
内的要因	12	収益性が高いため	62	収益性が低いため
	13	資金繰りがし易いため	63	資金繰りが厳しいため
	21	自社イメージの向上のため		
その他	22	社会貢献のため		
	23	自社の雇用確保のため		
	29	その他	79	その他

4. 実施場所コード

選択 番号	実施場所												
1	北海道	8	茨城県	15	新潟県	22	静岡県	29	奈良県	36	徳島県	43	熊本県
2	青森県	9	栃木県	16	富山県	23	愛知県	30	和歌山県	37	香川県	44	大分県
3	岩手県	10	群馬県	17	石川県	24	三重県	31	鳥取県	38	愛媛県	45	宮崎県
4	宮城県	11	埼玉県	18	福井県	25	滋賀県	32	島根県	39	高知県	46	鹿児島県
5	秋田県	12	千葉県	19	山梨県	26	京都府	33	岡山県	40	福岡県	47	沖縄県
6	山形県	13	東京都	20	長野県	27	大阪府	34	広島県	41	佐賀県	48	海外
7	福島県	14	神奈川県	21	岐阜県	28	兵庫県	35	山口県	42	長崎県	49	その他・不明

5. 記入例

